

《学生からのメッセージ》

私は母国ビルマ（ミャンマー）から亡命して今年で18年になり、2005年に日本政府から条約難民として認定され保護を受けました。その後は自分の可能性に挑戦する機会が増え、母国のために役に立ちたい、もっと勉強したいと思い悩んでいた矢先にUNHCRと関西学院大学が締結した2007年からの難民特別奨学生受け入れ制度に合格し、第一期生として現在、総合政策学部・総合政策学科で勉強しています。将来は、学校で学んだ知識を活かして母国の発展に貢献し、難民として命の危険から保護してくれた日本と母国との間の懸け橋になれる事を願って、何時か恩返ししたいと思っています。

ミョウ・ミン・スエ

ヤンゴン経済大学に入学後、母国を逃れて来日。

関西学院大学の難民推薦入学制度の1期生として、総合政策学部に入學。

関西学院大学
の
取り組み

関西学院大学は、2006年にUNHCR駐日事務所と協定を結び、大学への進学が困難である難民の推薦入学制度を設けました。以来、毎年難民学生を受け入れ、現在8人が学んでいます。

難民と共に学ぶことにより、一般学生は難民問題や国際問題に目を向け、学生による支援イベントや支援募金を実施するなど、学生たちのさまざまな活動へとつながっています。お互いに学びながら、高等教育機関ならではの難民支援の輪が広がっていくことを期待しています。



関西学院大学からのコメント

青山学院大学
の
取り組み

青山学院大学では、難民支援・国際協力の観点から「UNHCR駐日事務所との協定による難民を対象とする推薦入学試験」を、2008年度入学生より実施しております。現在、2010年4月の入学予定者を含め、3学部各1名の難民学生を受け入れております。今後も、キリスト教信仰にもとづく教育方針を掲げている大学として、難民に対する高等教育の機会を提供することで社会貢献に努めてまいります。

伊藤 定良
青山学院大学学長



《学生からのメッセージ》

「大学で国際関係を勉強して将来、世界中の難民や、自分の民族のために貢献したい」というたった一つの夢を持って、2006年来日しました。難しい日本語や厳しい生活に、その時は夢を実現できるかとても不安でした。しかし、日本語と生活の基礎について学び、「頑張れば大学で勉強できる」という自信ができました。大学入学を目指す時に一番問題だったのは学費のことでしたが、難民高等教育プログラムに合格し、私の夢の扉が少し開いたと思えました。現在、私は青山学院大学の一年生です。大学で学ぶことは、私の夢を実現させるためのチャンスです。それを与えてくれた日本に伝えたい一言… “Thank you Japan”。



カディザ・ベゴム

2006年末来日。その後、日本語と社会生活学習のためRHQ支援センター※に入所（6カ月）。2008年にUNHCR難民高等教育プログラムに挑戦、翌年青山学院大学における同プログラムの2期生として、総合文化政策部に入学。

※難民事業本部（RHQ）が管理運営する、難民やその家族の定住促進を支援するためのセンター。

都立高校
の
取り組み

都立高校における教科「奉仕」の取り組みは、教科書による座学ではなく、生徒たちが体験をすることによって、より実践的な知識を習得することを目的に実施している。

その一例として、2009年には都立武蔵高校、都立美原高校等ではユニクロと共同で「全商品リサイクル活動」を開始した。

生徒たちが難民キャンプの存在を知り、活動の意義を感じながら、校内だけに留まらず、家庭や、地域の協力も仰ぎ、主体的に制作したポスターやチラシで告知する。難民キャンプのニーズに合わせて衣類を回収、仕分けし、難民キャンプの人が着てくれることを楽しみにしながら、日本からできる支援のあり方を考えている。